

「初心者にもわかる総義歯臨床を成功に導くためのポイントと情報交換」

超高齢化社会になり、様々な情報が飛び交う昨今において無歯顎患者はいかに「よく噛める 痛くない 落ちてこない」から「有歯顎時と同様な機能を持ち装着違和感がない」ことが求められるようになってきている。高齢になるにつれ無歯顎患者の口腔内顎堤吸収は大きくなる傾向にあり咀嚼や嚥下、発音、審美に問題を抱える割合が増え失われた形態の回復と機能回復は困難になっている。

患者の有床義歯を使用しなくなった原因の一つは「合わない（不適合）から始まり「噛めない、噛んだ時に痛い、落ちる」など様々である。これらの原因を解決しつつ総義歯臨床を成功に導くためには歯科医師、歯科技工士双方の技量に左右されることは勿論であるがいかに情報交換をしつつ補綴物の完成形に持っていくことが重要でそのポイントをいくつかお話ししたい。

■ 模型から口腔内をどう読むか

- ・ 規格模型の製作と 3 次元的空間認識
- ・ 歯科医院と歯科技工所の情報交換と共有

■ 口腔内に正確に適合させるために

- ・ 歪ませないアルジネート印象材と石膏の操作と管理（歯科医院）
- ・ 床用レジンの成型操作でどう口腔内に適合させるか（ラボ）

■ ケースプレゼンテーション

- ・ 模型と歯科医院からの情報からどう咬合平面と咬合の改善をするのか